

教育委員会会議録

令和4年（2022年）1月定例教育委員会会議

開 会 日	令和4年（2022年）1月27日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 4時00分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委 員 会	遠藤洋路 教育長 出川聖尚子 委員 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員
	事 務 局	松島孝司 教育次長 森江一史 教育次長兼学校教育部長 中村順浩 教育総務部長 他
提 出 議 案	<p>議第 1号 教育長の営利企業等の従事について</p> <p>議第 2号 令和3年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）補正予算（2月補正予算）について</p> <p>議第 3号 令和4年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）当初予算について</p> <p>議第 4号 熊本市立野外教育施設条例の一部改正について</p> <p>議第 5号 市立高等学校・市立総合ビジネス専門学校改革に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について</p> <p>議第 6号 熊本市奨学金条例の一部改正について</p> <p>議第 7号 公の施設の他の団体の利用に関する協定について</p> <p>議第 8号 熊本市公民館条例の改正について</p> <p>議第 9号 和解の成立について</p> <p>議第10号 熊本市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例案に対する意見について</p>	
報 告	<p>(1) 令和3年第4回定例市議会報告について</p> <p>(2) 必由館高校改革に関する意見交換会について</p> <p>(3) 熊本市立高等学校における令和4年度（2022年度）使用予定一般図書について</p> <p>(4) 熊本市立平成さくら支援学校における令和4年度（2022年度）使用予定一般図書について</p>	
署 名	西山 忠男	
	遠藤 洋路	
会議録作成者	教育政策課 木村三恵	

〔開会の宣告〕

遠藤洋路 教育長

令和4年1月定例教育委員会会議を開会いたします。

〔会議の成立〕

遠藤洋路 教育長

本日は、私の他3人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。

会議録署名人は、西山委員と私とします。

〔公開の審議〕

遠藤洋路 教育長

本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、通知しておりました案件のうち、議第1号 教育長の営利企業等の従事については、取り下げております。

また、本日の議事のうち、議第2号 令和3年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）補正予算（2月補正予算）について、議第3号 令和4年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）当初予算について、議第4号 熊本市立野外教育施設条例の一部改正について、議第5号 市立高等学校・市立総合ビジネス専門学校改革に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について、議第6号 熊本市奨学金条例の一部改正について、議第7号 公の施設の他の団体の利用に関する協定について、議第8号 熊本市公民館条例の改正について及び議第9号 和解の成立については、「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」であることから、会議規則第13条第2号の非公開事由に該当し、非公開の審議が適当と思っておりますがいかがでしょうか。

議第2号から議第9号につきましては、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。

（全員挙手）

遠藤洋路 教育長

全員賛成により、議第2号から議第9号は、非公開とします。

日程第1 前回来議録承認

遠藤洋路 教育長

12月23日開催の令和3年12月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告

（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R3. 12. 23）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

日程第4 報告

遠藤洋路 教育長

議事の都合により、先に報告（2）を審議します。

- ・報告（2）必由館高校改革に関する意見交換会について

《松永直樹 学校改革推進課長 報告》

遠藤洋路 教育長

西山委員と小屋松委員はご出席されていて、出川委員はご欠席でしたけど、何かご覧になって感想、その他もしあればと思いますけど。特によろしいですか。

出川聖尚子 委員

12月にご報告をいただいたので、そのときにお聞かせいただいた意見交換の内容にご意見させていただきましたので、今回は特にありません。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

西山忠男 委員

今後、どういう段取りといたしますか、どういう手続で改革案を詰めていくのかというところをちょっとお伺いしたいんですけど。

松永直樹 学校改革推進課長

その点につきましては、後ほどまたご協議をさせていただきたいというふうに思っておりますが、基本的には学校案及び元々提案をさせていただいております当初案を勘案したうえで、案をまとめさせていただきたいというふうに考えております。

また、学校提案の中では、最短のスケジュールとしまして、

遠藤洋路 教育長

令和4年6月の基本計画案の策定を想定しておりましたが、そういったスケジュールのおおよその部分というのは踏襲しながら、どの時期に計画がつくれるのかということも改めて考えていきたいというふうに考えております。

今、事務局案をつくっているところですので、また委員の皆様にご覧いただいて、ご意見いただいて、その後の進め方も協議させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

では、他にはよろしいですか。

では、他にご発言がなければ、本件は以上といたします。

・報告（1）令和3年第4回定例市議会報告について

《資料事前配付》

西山忠男 委員

ちょっと2点あるんですけど、1つずつお願いしたいと思います。

1つは、特別支援教育に関連して。移行シートの件で、保護者の承諾が得られないのでうまくいかないケース。これは10ページですね。10ページの2段目に、移行支援シートを活用した引継ぎの実施について、保護者の承諾が得られないケースがあるというこれはどういうことなんでしょうか。まずそれをお尋ねしたいです。

若杉敏郎 特別支援教育室長

今の10ページにあります移行支援シートの活用に関して、引継ぎの保護者の承諾が得られないケースについての具体的な状況のご質問だと思っておりますけど、移行支援シートというのは、子どもたちが学びの場が変わったりする、幼から小、小から中、中から高というところで変わるときに、学校では個別の教育支援計画というのを担任と保護者の合意の下で作成をいたします。それは支援が必要な子どもたちには、ほぼほぼつくっていますが、そのことを年度末に新たな学びの場にご提供するかということに関する同意の際に、その情報自体が新たな学びの場でマイナスになるのではないかというようなことや、入試とか、いろいろな情報に触るのではないかというそういうご心配があるケースがありまして。我々は引継ぎをする際には保護者の同意を、印鑑とか、サインとかそういうものを求めています。

	<p>るところで、慎重な対応を求められるケースがあって、実際、文書やデータ上での引継ぎではなくて、口頭での引継ぎ等を行っている場合があるという内容になっております。</p> <p>以上です。</p>
西山忠男 委員	<p>分かりました。</p> <p>普通に考えますと、きちんと引継ぎをしていただいた方が教育がスムーズになると思いますし、そういう意味で、小中一貫校ができていけば、その辺は非常にスムーズになると思うんですけど、まだなかなか保護者側の理解が得られていない状況だということなんじゃないかな。</p>
若杉敏郎 特別支援教育室長	<p>委員ご指摘のところも非常に重要なポイントだと思っておりますし、我々、個別の教育支援計画を作成する際は大体1学期中に作成をいたしますので、その作成する際にどういう保護者との合意の下に作成していくのか、そういうことを引継ぎということも確認したうえで、様式も含めて今後検討が必要かなというふうに思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そういうケースがあるということで、全部が全部、もちろんそうではありませんけど、入試に不利になるんじゃないとか、そういう誤解をされないように丁寧に説明をしていく必要があるのかなというふうに思っています。</p>
西山忠男 委員	<p>続いて、特別支援教育のあおば支援学校のスクールバスの件ですけど、これを直営にすべきではないかという意見がどこかに書いてあったと思うんですが、これは12ページですね。12ページですが、現行では民間委託、将来的には直営も考えられるというようなことが書いてありますけど、現行で民間委託にしている理由と将来的に直営にする可能性というのは、どういう要素からそうなっているのかお伺いしたいです。</p>
若杉敏郎 特別支援教育室長	<p>直営に関するご指摘というのがありまして、我々も今、あおばのスクールバスにつきましては、あおばの希望を基に教育委員会で契約をさせていただいておりますけど、単年度契約というかたちで、現在バスを2ルートの運行で行っております。</p> <p>もちろん、支援学校の子供さんですので、バスに乗って通ってくるだけではなくて、バスの中での安全管理、そして子ど</p>

もたちへの対応というのが求められる中で、実際に子どもたちの対応ということを考えたら、議員からは直営というようなことがあってもいいのではないかという指摘だったというふうに理解しております。

もちろん、そのご指摘を踏まえたうえで、今、プロポーザルの中では、そういう要素もきちっと契約の中に入れていただくようなことを盛り込みまして、そのことを適切に評価してやっていきたいと思っておりますけども、現在、まだあおばの子どもたちが2年目ですので、子どもたちが増えている状況で、それがバスのルートもまだ不安定さが残っている中では、今後、子どもたちの定員が大体見えてきた段階で、ルート数とルートも含めて固まってくるだろうという中で、こういう議論、それと複数年契約等も含めて、また考えていく必要があると思っております。

遠藤洋路 教育長

これは私が答弁をしたんですけど、今、出たように、毎年、学年が増えていくので、人数がだんだん増えていきますから、最終的にバスが何台必要で、人が何人要るのかということが固まってから、その時点で最終的な検討をするということで、今は1年ずつどんどん人も増えていく状況ですので単年度でそれぞれ必要な分を契約しているということですね。

西山忠男 委員

今のご説明にもありましたように、特別支援の生徒さんたちにはやはり十分な配慮が必要なので、去年、どこかの保育園でスクールバスに置き去りにされて亡くなるという事故もございましたので、そういう事故が起こらないように十分に安全に配慮した運営をお願いしたいと思います。

遠藤洋路 教育長

はい、分かりました。

出川聖尚子 委員

9ページ目のオンライン学習支援について、9月から11月までの申込者数とそのうち実際に利用できた人数の差がありますが、これはどういう理由で実際に利用できた方の数が違うのか教えていただければと思います。

川上敬士 総合支援課長

不登校の子どもさんの家庭にとっては非常にニーズが高くて、現在で200名ぐらいの申込みがっております。もちろん、子どもさんと保護者が話し合いながら申込みをされていま

	<p>すが、慣れない学習形態ですので、申し込んだけれど、子どもがオンラインに入っていけないとか、あと一旦は入ったけれど、オンラインが合う子どもと合わない子どもというのがあり、一応申込みはして1回入ってみたけれど、なかなか続かないということもあります。毎月、傾向を見ておりますが、大体、申込者数の半数ぐらいは、ほぼオンラインに入ることができている状況です。</p>
出川聖尚子 委員	分かりました。ありがとうございました。
遠藤洋路 教育長	保護者が申し込まれるけど、本人がその気にならないというそういうことも結構あるんだと思います。
小屋松徹彦 委員	私も今の質問に関連しますけど、オンライン学習支援というのが、恐らく今後もどんどん需要というのは高まってくるんじゃないかなというふうに思うわけですね。そのときに体制をつくる側、教育委員会側がどの程度進むかというのが非常に大事になってくるかと思うんですけど、今ここに、10ページに、学習支援員の増員とかスタジオの増設等についても検討していくというふうになっておりますけど、具体的に何か今、そこら辺を検討されているところで、例えば近々に実現するところとかというのがあれば教えてください。
川上敬士 総合支援課長	<p>先ほども言いましたように、200名近くの申込みがあっておりまして、これから来年度4月以降も継続するかという確認作業を行っていきます。そこである程度、4月からのスタートの人数が出てきますが、来年度に向けて進めているのは、小学校で低中高の3スタジオ、それから中学校は中1、中2、中3の学年ごとの3スタジオ、その6スタジオをつくって、そこに必要な人員と機材等を予算要求で上げているところです。</p> <p>どうしても学ぶ内容にかなり差がありますので、小学校を2学年ずつやっており、それでちょうどいいかなというところで低中高で行う予定です。中学校は3学年一緒にやっていますが、やはり中3と中1では学習の内容もかなり違いますし、学年ごとがいいだろうということで、それに向けて準備しているところです。</p>
遠藤洋路 教育長	まだあくまでも教育委員会の原案ですので、それが正式な予

	<p>算案になって議会でご承認をいただければ、そういうふうになるということで、確定はしていませんけど、そういう準備を今、各担当課ではしているということですね。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>小屋松委員、よろしかったですか。</p> <p>もう1つそれに関連してですけど、この申込みをした人がオンライン学習を受けられるのは、新年度に申込みをして1年間ということですか。例えば途中で支援を受けるというケースがあるのかどうか。</p>
川上敬士 総合支援課長	<p>これは4月時点の申込みだけではなくても、随時申込みを受付けますし、例えば申し込んだけれど、オンラインに入れない子を「もうやめますか」というそういったことはしません。申し込んで、入りたいときに入ってきてくださいというスタンスで、とにかく不登校の子どもたちの居場所と学力保障というのが目的です。そして、オンラインに合う、合わないもありますし、学校も一生懸命、オンライン授業を配信しているところもありますので、あとは子どもさん、保護者の方が選択してオンライン学習支援に来ていただくということを基本スタイルにしております。</p>
西山忠男 委員	<p>これは9ページですかね、総合ビジネス専門学校の改革についての質問に対する答えのところなんですけど、「市立高校との連携については、先に述べた推薦枠設置や千原台高校のビジネス系科目等との教育内容の接続、探究的な学びの共同実施等により学校間連携を強化することで、高校と専門学校での連続した学びの実現を図りたいと考えている」とございますが、これをそのまま読むと、千原台高校からビジネス専門学校に直接進学するようなイメージになりますけど、何割ぐらいの千原台の生徒がビジネス専門学校に進学することを想定しているのかというのを1点お尋ねしたいのと、こういう連携を行うことで、それぞれの学校においてどのような教育効果があるのかというのをそれぞれの校長先生にお伺いしたいと思います。</p>
松永直樹 学校改革推進課長	<p>まず、1番目にいただきましたご質問についてお答えをさせていただきます。</p> <p>進学枠の設置につきましては、ビジネス専門学校で今、検討中でございますが、現時点におきまして何人ということをご想定</p>

しているわけではございません。当然のことながら、千原台高校につきましては、多数の生徒がいらっしゃる中で、ビジネス専門学校の定員は1学年70人というところがございますので、ここにつきましては、これまでの進路の実績等も踏まえまして調整をしていきたいと思っております。

現時点におきましては、進学を希望する生徒について、例えば指定校推薦のような特別枠、推薦枠を設けるようなことで入りやすくする、その生徒の強い進路選択に沿った、意欲に応じた学びができるような取組を進めるというようなことになると思います。

連携の部分につきましては、高校3年間＋ビジネス専門学校の2年間、合計5年間の学びの中で、様々な取組ができるというふうに考えております。現時点におきましては、例えば起業家教育、事を起こすということでしたら、ビジネス専門学校も千原台高校も既に取り組んでいるところもございますし、その部分につきましては民間の力もお借りをしまして、さらに取組を進めようというふうに考えております。

また、例えば簿記の資格取得というようなことでありましたら、ビジネス専門学校でさらに高度の資格取得を目指す、これは情報も同様でございますが、ビジネス専門学校と千原台高校、必由館高校も資格取得等については連携して様々な取組ができるかというふうに考えております。

加えて、連携という部分でいきましたならば、ビジネス専門学校におきましてどういった授業を設けるかということと、それが通いやすい学費になるかというようなところ、そういった経済部分のところもあろうかと思っております。その点につきましては、今後、詳細を詰めていきたいというふうに考えているところでございます。

遠藤洋路 教育長

校長はいいですか。

西山忠男 委員

校長先生にお尋ねする前に、今のお答えに対してお尋ねしますが、現状では、千原台からビジネス専門学校に進学する方は何名ぐらいいらっしゃるんですか。

古家幸生 総合ビジネス
専門学校校長

令和3年度、今年度入学された方は、必由館高校から6名、千原台高校から5名でございます。

西山忠男 委員

ありがとうございます。私もそれぐらいだと記憶していたんですけど、今後はその連携を深めることで進学者数を増やす方向で考えていると理解してよろしいのでしょうか。

古家幸生 総合ビジネス
専門学校校長

はい、増やしたいと思っております。市立高校と市立専門学校の連携を強みとして打ち出したいと思っておりますので、その点は高校の校長先生方に詳しく説明していきたいと思っております。

西山忠男 委員

分かりました。
じゃ、元の質問で、それぞれの校長先生に、連携による教育効果についてお尋ねいたします。

遠藤洋路 教育長

千原台の南校長は少し遅れて来るので、ビジネス専門学校からまず答えていただいてもいいですか。

古家幸生 総合ビジネス
専門学校校長

千原台高校には、ビジネスに関する学習をする専門の商業科がございますので、その3年間の学びに接続するような教育課程で、さらに専門学校で2年間上乘せし、より専門性を向上する。特に、起業家教育をベースに行いますので、そういった視点で高校にも学習指導していただいて、起業家の養成につながるような、特色を打ち出せると思っております。

西山忠男 委員

分かりました。

遠藤洋路 教育長

よろしかったでしょうか。ではまた、南千原台校長が到着したら回答していただきたいと思っております。
他にはよろしいでしょうか。
他にご発言がなければ、本件は以上といたします。

・報告（3）熊本市立高等学校における令和4年度（2022年度）使用予定一般図書について

《石加浩二 指導課長 報告》

・報告（4）熊本市立平成さくら支援学校における令和4年度（2022年度）使用予定一般図書について

《若杉敏郎 特別支援教育室長 報告》

西山忠男 委員

感想ですけど、ちょっと値段が高いですね。特別支援教育の教科書というのはやっぱり値段が高めなんでしょうか。

若杉敏郎 特別支援教育室長

値段についてのご質問だと思いますけど、私も実物は見ましたけど、そのままいろいろな教材に使えるような厚手な感じの本になっておまして、この値段が適正かどうかというのはちょっと私も判断しかねるところですけど、特に平成さくら支援学校ですので、支援が必要なお子さんたちの実習等に直接使えるような教材として、この国語と数学の内容が盛り込まれているというふうになっておりますので、部数的にも少なく、専門的な内容として出版されているものだというふうに思っております。

遠藤洋路 教育長

そうですね、全員使う教科書よりも部数が大分少ないということもあるんでしょうね。

他にはよろしいですか。

他になれば、本件は以上といたします。

・報告（1）令和3年第4回定例市議会報告について（追加）

遠藤洋路 教育長

では、先ほどに戻りますが、西山委員のご質問で、千原台高校、それから総合ビジネス専門学校の連携、接続ということで、千原台の南校長が到着しましたので、その連携による効果という点について、高校側からの観点からご回答いただければと思いますが、よろしいですか。

南弘一 千原台高等学校校長

大変失礼いたしました。本校で本日、前期入試の判定会を行っておりますので、それが終了次第での参加とさせていただきます。大変遅れましたこととお詫び申し上げます。

ご質問にお答えいたします。

ビジネス専門学校との今後の連携の方向性ですが、まず1つは、本校の生徒たちの例えば簿記の資格取得などについてですけど、高校の段階では現在、全商簿記といいまして、商業高校

の全国連盟が主催します簿記の検定はたくさん合格者が出ます。ただ、日商簿記といいまして、一般の方々も一緒に受ける、いわゆる専門学校生あたりが受ける簿記に挑戦する生徒も在校生におります。

現在の在校生もその資格を取得したことによって、公立大学に合格したという、それを活用してですね、そういった生徒も出てきております。なので、そのようなことを夜間コースとかそういったところで開校していただければ、現役の高校生がそちらの日商簿記対策に参加をさせていただいて、現役で日商簿記の取得をもっともっと進めていって、それが就職やひいては国公立大学の進学にも結びつくということを1つ想定しております。

その他にも、マルチメディアなどの学習も進めておりまして、映像づくりとかそういったこともやっております。ビジネス専門学校には、そういった非常勤の講師の方もいらっしゃるというので、そういったことへも希望のある生徒たちはどんどん積極的に参加させて、生徒たちの可能性を広げるように役立てていきたいというふうに考えております。

以上です。

西山忠男 委員

先ほどおられなかったんですけど、ビジネス専門学校の校長先生のほうからは、千原台からの進学者を増やしたいというお話がありましたけど、千原台としても同じような考えと理解してよろしいでしょうか。

南弘一 千原台高等学校
校長

同じように考えております。現在、まだなかなか、これまでの流れの中で直接的な交流があまりできていない状況がありましたので、今申しましたような交流が増えていくと、もう少し直接的な進学希望者も増えていくのではないかなというふうに考えております。

西山忠男 委員

ここにも書いてあるんですが、併せて大学へ編入を希望する生徒への支援体制も構築すると書いてありますので、もしそれも可能になれば、一旦はビジネス専門学校へ行ったけど、さらに大学に行きたいという人も出てくると思いますので、そういう道筋もつけていただければありがたいかなと思います。よろしく申し上げます。

古家幸生 総合ビジネス
専門学校校長

大学編入につきましては、今年、長崎大学の経済学部にも1名、
3年次編入試験に合格しておりますので、そういった学生をし
っかり支援していきたいと思っております。

[非公開の審議]

日程第3 議事

- ・議第8号 熊本市公民館条例の改正について

《青山和人 生涯学習課長 提出理由説明》

[採決] **【原案どおり承認された】**

- ・議第2号 令和3年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）補正予算（2
月補正予算）について

《中元正人 教育政策課長 提出理由説明》

[採決] **【原案どおり承認された】**

- ・議第3号 令和4年度熊本市一般会計及び特別会計（奨学金貸付事業会計）当初予算につ
いて

《中元正人 教育政策課長 提出理由説明》

[採決] **【原案どおり承認された】**

- ・議第4号 熊本市立野外教育施設条例の一部改正について

《田口清行 青少年教育課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第5号 市立高等学校・市立総合ビジネス専門学校改革に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

《石加浩二 指導課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第6号 熊本市奨学金条例の一部改正について

《上村奈津子 指導課副課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第7号 公の施設の他の団体の利用に関する協定について

《大谷修一郎 市立図書館長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第9号 和解の成立について

《上村清敬 健康教育課長 提出理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

遠藤洋路 教育長

本日の日程は全て終了したので、令和4年1月の定例教育委員会会議を閉会いたします。お疲れさまでした。